

**J R E 酒田風力発電所 更新計画 環境影響評価準備書  
に対する山形県知事意見**

**1 全般的事項**

**(1) 総論**

風力発電設備が原因となる環境影響に関する地元住民からの意見には丁寧に対応するとともに、環境への影響が確認された場合は関係自治体と情報を共有のうえ、適切な措置を講ずること。

**(2) 事業計画について**

- ① 環境影響評価の結果を事業計画に適切に反映させるとともに、環境保全措置及び事後調査を確実に実施し、事業実施区域周辺の自然環境及び住民に対する影響の回避又は低減に努めること。
- ② 砂丘全体は大きな地形として変わらないように見えても、砂は常に移動していることから、風車の基礎構造については安全面に加え、砂の移動を妨げないよう環境面も踏まえて検討を行うこと。
- ③ 風力発電設備の撤去・更新工事に伴い搬入する土砂の購入計画及び履歴の管理を適切に行うこと。

**2 個別事項**

**(1) 騒音及び超低周波音、風車の影等について**

- ① 騒音に関しては、施設の稼働後に実測値を把握するとともに、影響の程度にかかわらず受音側の感じ方が異なることから、住民への対応窓口を設け、問合せがあった場合はヒアリングを行い、状況に応じて適切な対策をとること。
- ② 風車の影（シャドーフリッカー）に関しては、影響の程度にかかわらず受け手の感じ方が異なることから、自治体等と連携して住民とのコミュニケーションを十分図るとともに、対応窓口を設け、問合せがあった場合はヒアリングを行い、状況に応じて適切な対策をとること。

## (2) 動物、植物及び生態系について

- ① 風力発電設備のブレードの彩色については、現状で利用可能なデータを集積し、科学的にバードストライクへの有効性が検証されたものの使用を検討すること。

また、夜間のバードストライク対策についてモニタリング調査を行い、予測値と実測値の差について検証すること。

- ② 風力発電設備のカットイン風速を時期と時間帯によって変えることにより、バットストライクを低頻度に保つことが可能とみられることから、機種選定にあたってはカットイン風速の調整能力も検討すること。

- ③ 既設風力発電設備で死骸調査をしているが、新設は既設よりも高さがありローター直径も大きいので、バードストライク及びバットストライクのモニタリング調査を実施し、予測値よりも実績が大きくなる場合は何らかの対策を検討すること。

- ④ 重要な植物(イソスミレ)や群落(ハマニガナーハマヒルガオ群落、カワラヨモギ群落)の保全計画については、専門家の意見も踏まえながら、移植や播種計画の詳細を評価書に記載すること。

また、繁殖力が旺盛な外来種アメリカンビーチグラス群落を除去しからの移植は不確実性を伴うことから、モニタリング調査により定着の状況を確認すること。